

1 自分をみがいて
(5) 進んで新しいものを求めて

P.42~49

1-(5)

真理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目では、自己をより創造的に発展させ、新しく進歩したものを積極的に取り入れ、創意工夫しようとする児童を育てることが求められている。高学年の段階では、知らないことを知りたいと思う欲求はあるが、物事への興味・関心が持続しにくい傾向もある。また、新しいことへのチャレンジに関して、現状でよいと考え、進んで新しいものを求めようとする意欲が高まらない児童も見られる。

そのため、本内容項目においては、好奇心について考えることができるような文章や写真、書き込み欄、また、好奇心をもって新しいものを追求していった先人について学ぶページを設けている。さらに、読み物資料「天からの手紙」では、何度も失敗を繰り返しながらも様々な工夫を凝らし、人工雪を誕生させた中谷宇吉郎の姿を通して、創意工夫することの大切さを考えることができる。

2 活用のポイント

生活の中にある便利なものは、先人の好奇心から生まれたものである。随時ページを読んで、様々な場面での「なぜだろう」「不思議だな」「こんなものがあるといいな」といった豊かな発想をより多く引き出し、進んで

P.42~43

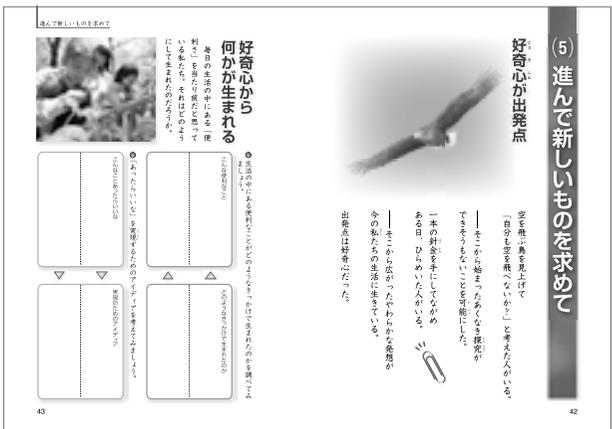
新しいものを求めたり、工夫しようとしたりする態度を育てていくようにしたい。

3 活用場面例
道徳の時間

導入の段階で四十二ページの文章を読んだり、終末の段階で四十三ページの書き込み欄を活用したりすることができ。

事例

- ① 四十二ページを読み、好奇心に関する自分の考えを発表する。
- ② 読み物資料「天からの手紙」を読んで話し合う。



- ③ 自分の経験を振り返って、四十三ページに「あったらいいな」を実現するためのアイデアを記入する。
- 特別活動（学級活動）
学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」の指導に当たっては、四十四・四十五ページを活用してアイデアを出し合い、現在の生活をよりよく改善していくことについて考えさせることができる。

事例

- ① 四十四・四十五ページを読み、新しいものを求めること、工夫することの大切さを確認する。
- ② よりよい学級や学校の生活づくりのための取組について、自分が頑張っている所ともっと頑張りたい所について話し合う。
- ③ 頑張りたい所を改善するためのアイデアなどをグループごとに考え、発表する。
- ④ 様々な工夫やアイデアの中から、これから自分が取り組みたい方策について決め、実行できるようにする。

■ 家庭との連携

学級通信等で、本内容項目についての学習の様子を家庭に伝え、協力を依頼する。
授業の後、四十四・四十五ページに掲載されている人物について家の人と話し合ったり、児童の探究心を喚起する言葉掛けをもらうことで、児童の実践意欲を高

めていくことができる。
また、様々な発明家などについて、家の人から紹介してもらい、その中で児童が関心をもった人物について、伝記を読むなどする。その人物が行った創意工夫の過程を知り、探究することの魅力を感じて、物事への好奇心を一層膨らませていくことができる。

■ 日常生活

児童が好奇心や探究心を抱く場面や機会は、日常生活の中に数多くある。そこで、四十三ページをカードにして教室に常備し、アイデアを思い付いたときにカードに書いて帰りの会などで発表する。また、四十四・四十五ページの人物の言葉を教室に掲示することで、創造的な態度や探究心を日常的に育んでいくようにしたい。



P.44~45

1 資料の特性

本資料は、雪や雷などの研究において先駆的な存在だった中谷宇吉郎の人工雪誕生の研究にまつわる話である。日頃から雪害を防止したいと思っていた宇吉郎は、ある日、手にした写真集の雪の結晶の美しさに感動し、雪の研究に着手する。実験装置作りや、雪の核になるものを求めて失敗を繰り返しながらも工夫を続け、ついに、うさぎの毛を利用して雪の結晶作りに成功する。新しい考えを取り入れ、次々に工夫していく宇吉郎の姿に、児童は、人間の知恵のすばらしさを感じる事ができる。自らの生活を見直し、よりよくするという観点から、進んで新しいものを求めること、様々な工夫することの大切さについて考えることのできる資料である。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、雪の結晶の美しさと、それとは相反する雪による被害（交通機関の乱れや農作物への悪影響）などについて、映像等を通して理解させておくことも考えられる。
また、何度も失敗しながら工夫を重ねていく宇吉郎の姿から、不とう不屈などの道徳的価値も浮かび上がってくる。これらの道徳的価値についても必要に応じて触れながら、授業のねらいを踏まえて指導に当たることが大

切である。

3 展開例

【ねらい】

真理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくしようとする態度を育てる。

事例①

新しい方法を考え続けた中谷宇吉郎の思いを考える展開

【主な学習】

- ① 四十二ページを読んで、好奇心をもつとはどういうことか話し合う。
- ・ どうしてだろう、不思議だなと思うこと。
- ・ 新しい方法はないか考えること。
- ② 人工雪を作ろうと思いついた宇吉郎の心の中に浮かんだことはどのようなことだろうか。
- ・ 人工雪が作れば、どのような雪が降るかを予想できる。
- ・ 雪の被害を少なくしたい。
- ・ 難しいことだけれど、何とか成功させたい。
- ③ 雪の核作りに何度



も失敗しながら、宇吉郎はどのようなことを考えたのだろうか。

- ・ 自分には作ることはできないのかもしれない。
- ・ もっとよい方法はないのだろうか。
- ・ よい方法が見付かるまで、何度でも試してみるぞ。
- ④ うさぎの毛を使い、雪の結晶を作ることができた宇吉郎はどのような気持ちだったか。
- ・ いろいろな工夫をしてきてよかった。
- ・ まさかうさぎの毛で雪の結晶ができるとは思わなかった。
- ・ これで、いろいろな研究を進めることができるぞ。
- ⑤ 自分の経験を基に、四十三ページの書き込み欄に、「あったらいいな」を実現するためのアイデアを記入し、発表する。
- ・ 人間が歩くと自然に電気がたまる道路。
- ・ 汚れた空気をきれいにしてくれるマスク。
- ・ 昼間でも星を見ることができると天体望遠鏡。

事例②

新しいものを求めるといふことについて考える展開

【主な学習】

- ① 宇吉郎が、雪の結晶を作り、雪の結晶から上空の気象状態を知るような研究を成し遂げることができたのは、どうしてだろうか。
- ・ いろいろと試しながら諦めずに実験を続けてきたから。
- ・ 失敗しても繰り返し様々な方法を試したり、他の人の言うことを取り入れたりしてやってきたから。

- ・ 研究員の言葉を聞き逃さず、いろいろ試してみようとする探究心があったから。
- ・ 今までのやり方や自分の考え方だけではなく、新しいやり方や他の人の意見を取り入れたから。
- ② 四十四・四十五ページを読み、十八代中村勘三郎、マリー・キュリー、池田菊苗と宇吉郎との共通点や新しいものを求めるといふことについてグループで話し合う。

(中村勘三郎)

・ 歌舞伎を渋谷や外国で演じるなんて、新しい挑戦だったので大変なこともいろいろあったのだと思う。それでも諦めないで続けた所が宇吉郎と同じだと思う。(マリー・キュリー)

(池田菊苗)

- ・ 身近な食べ物である昆布出汁の湯豆腐のおいしさに感動や疑問を感じ、うま味を発見している。身近な不思議に目を向けている所が宇吉郎と共通している。
- ③ 自分の生活の中で、進んで新しいものを求めたり、工夫したりしていることはあるか。
- ・ 学習したことを整理しやすいように、ノートまとめ方を自分なりに工夫している。
- ・ 古着や布切れを使ってコースターや敷き物を作っている。

1 自分をみがいて
 (6) 短所を改め、長所をのびして

P.50~53
 1-(6)

1 この内容項目のページの特徴

積極的に自分のよさを伸ばし、個性の伸長を図ろうとする児童を育てる内容項目である。そこで、自分のよい所を見付けることで自分らしさについて考えるページと、自分の変えたい所を考えるページを設けている。五十一・五十三ページは、児童が自己を見つめて主体的に自身のよい所や変えたい所について記入できるようにしている。

個性の伸長とは、自分のよさを生かすことであり、自分らしさを発揮しながら調和の取れた自己を形成していくことである。児童が自分らしい生活や生き方について考えを深めていく視点からも、重視される内容である。他の人の意見も参考にしながら、自分自身のことを様々な角度から振り返って、自分の特徴を知り、短所を改め、長所を積極的に伸ばそうとする態度を育てていくことができるような内容になっている。

2 活用のポイント

高学年の段階では、自己の生き方を見つめ、自分の特徴を多面的に捉えられるようにすることが大切である。そうすることによって、自分のよい所と変えたい所の両面が見えてくる。

- ① 五十一ページに、自分のよい所を書き込む。
- ② 友達と互いのよい所を見付け合って書き込む。
- ③ 五十二ページを読んで格言の意味を考える。
- ④ 五十三ページの「私の良い所」「私の変えたい所」「もっとかかやくために」を書き込む。

特別活動（学級活動）

学級活動の内容「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」の「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」の指導に当たって、五十から五十三ページを活用することができる。

自分に自信をもち、生活や学習によりよく適応して自己を生かしていくためには、自己理解を深め、個性の伸長を図ることが大切である。自分のことを継続的に見つめ直し、自分を磨いていくきっかけとするために、五十から五十三ページを活用することができる。

事例

- ① 生活や学習の自分の目当てを決める際に、五十から五十三ページを読んだり、書き込んだりして、自分のよい所や変えたい所を考える。
- ② 五十一・五十三ページに書き込んだことを友達と互いに発表し合い、自分の個性を伸ばしていくことについて話し合う。

自分の特徴を知って、悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。

その際、自分が気付いたよい所を積極的に伸ばそうとする態度を育てること、またそれと同時に、自分が変えたい所をしっかり見極め、課題意識をもって改善に取り組んでいくことが個性を伸ばすために大切であることに気付かせるようにする。

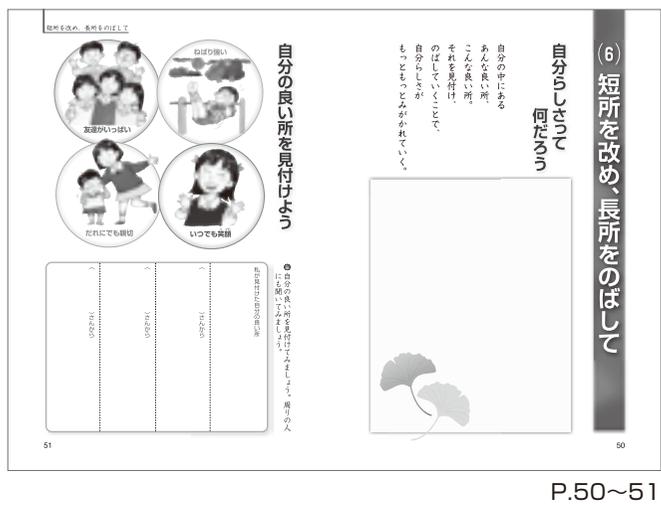
3 活用場面例

道徳の時間

五十・五十二ページの読み物部分と五十一・五十三ページの書き込み部分を併せて一単位時間間の道徳の授業として展開することができる。

事例

- ① 五十・五十一ページを読む



P.50~51

- ③ 友達からのアドバイスを参考に、自分のよい所をもっと伸ばす目当て、自分の変えたい所を努力して直そうとする目当てを決め、実行できるようにする。

家庭との連携

五十三ページに書き込んだことを家の人に紹介する。

自分のよい所や変えたい所について、家の人から意見や励ましの言葉などをもらうことで、短所を改め、長所を積極的に伸ばそうとする実践意欲を高めるようにしたい。



P.52~53